

授業科目	看護マネジメント論				実務家教員担当科目	○	
単位	1	履修	選択	開講年次	4	開講時期	前期
担当教員	隅田 由加里						
授業概要	<p>この授業は、「質の高い医療・看護」の提供を実現するためのマネジメント（管理）の学習を通して、「チーム医療を担う看護専門職」としての自己形成を深めることを目的とします。このため既習の知識と3年次の実習体験を想起しながら、今まで抽象的に捉えていた「医療・看護の質」を具体的に整理していきます。さらにそれを基に、「医療・看護の質」を維持・向上するためにはどのようにマネジメントするのかを、医療安全管理部、看護管理部、病棟をテーマに、その部門・部署の特徴を踏まえながら、マネジメントプロセス、資源、専門職としてのスキル、同職種・多職種との連携・協働等の観点から思考していきます。</p> <p>担当者は、実務家教員として福岡県看護協会認定看護管理者教育課程「セカンドレベル」、福岡県看護協会 医療安全管理者養成研修と感染管理者コースを修了し、長きにわたり看護管理者としてマネジメントを実践してきた経験をもっています。</p>						
授業形態	講義	授業方法	アクティブラーニング(反転授業、グループワーク、プレゼンテーション)を活用し授業を展開する。				
学生が達成すべき行動目標							
標準的レベル	<p>質の高い医療・看護を具現化するマネジメントとは何かを思考し理解した上で、チーム医療を担う看護専門職としての理解を深めることができる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 質の高い医療・看護の実践を思考するために必要となる、マネジメントの目的と定義、マネジメントプロセス、組織化、資源とその利活用、看護師に求められる能力、多職種連携・協働に関する基本的な知識を修得し説明できる。(DP1-2) 2. 医療安全管理部、看護管理部、病棟における「質の高い医療・看護の提供」を実現するためのマネジメントを、長期的観点に立ち、マネジメントプロセス（「計画化」「組織・人事化」「指揮」「統制」）と資源活用の視点から思考し自身の見解を説明できる。(DP2-1) 3. 限られた人材と時間の中で、質の高い看護を提供するための日々のケアマネジメントを、業務優先度、役割分担や再分配、協力の視点から思考し自身の見解を説明できる。(DP2-1) 4. 医療・看護マネジメントにおいて「心理的安全性」の必要性・重要性を思考し自身の見解を説明できる。(DP2-1) 5. 自立した女性として、生涯を通じて看護職として社会貢献できるよう、組織における看護師の存在意義を思考する意欲をもつことができる。(DP3-1) 6. 医療・看護の質の維持・向上のためにはチーム医療が重要であることを理解し、グループメンバー間で連携・協働・協力する意欲をもって課題に取り組むことができる。(DP3-2) 7. チーム医療を担う看護専門職となることを自覚し、限られた時間の中でセルフマネジメントを実践しながら、倫理に基づいた節度ある行動をとることができる。(DP4-1) 8. 医療現場の現状を捉え、医療・看護マネジメントの課題・問題を探求し改善策を思考し続ける姿勢を身につけている。(DP4-3) 						
理想的レベル	標準レベルに加え、自身の考えを論理的に根拠を踏まえ記述できるとともに、「チーム医療を担う看護専門職」としての自己形成を深めることができる。						
評価方法・評価割合							
評価方法	評価割合（数値）				備考		

試験		
小テスト	30%	授業最終日に実施します
レポート	30%	レポート課題は授業内で説明します
発表（口頭、プレゼンテーション）	10%	他者へのわかりやすい説明と工夫、技法等
レポート外の提出物	20%	ポートフォリオ
その他	10%	授業中の発言や質問など、授業への参加姿勢

カリキュラムマップ（該当 DP）・ナンバリング

DP1	○	DP2	○	DP3	○	DP4	○	DP5	-	ナンバリング	NU31606J
-----	---	-----	---	-----	---	-----	---	-----	---	--------	----------

学習課題（予習・復習）

1回の学習目安
(時間)

授業で示された課題に関して調べ学習を行い、文献から得られた知識を整理し、その知識を活用し自身の考え等をまとめ、ポートフォリオを作成する。

4

授業計画

第1回	<p>オリエンテーション テーマ：看護マネジメントの基礎的知識 担当：隅田由加里</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護マネジメントの目的・定義・意義 ・看護マネジメントの3つのレベルと看護マネジメントプロセス（計画化、組織・人事化、指揮、統制） ・組織と組織化 ・資源（ヒト、モノ、カネ、時間、情報）の活用 ・看護師に求められる能力 ・多職種連携・協働、チーム医療 ・医療・看護の質評価
第2回	<p>テーマ：「質の高い医療・看護」の思考① 担当：隅田由加里</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マンダラチャートを使用して、看護総合実習を行う病院に求められている「質の高い医療」を思考し、その質を左右する事項を模索する。
第3回	<p>テーマ：「質の高い医療・看護」の思考② 担当：隅田由加里</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第3回で思考した「質の高い医療」をもとに、各部門・部署に求められる責務を「質の高い医療・看護」から模索する
第4回	<p>テーマ：「医療安全管理（事故防止管理）」における「質の高い医療」のためのマネジメント 担当：隅田由加里</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・医療事故防止における政策理解 ・政策から考える医療施設における医療安全管理部の組織構造 ・医療安全管理部における「質の高い医療」を具現化するためのマネジメントプロセス（計画化、組織・人事化、指揮、統制）の思考 ・医療安全管理部における資源（ヒト、モノ、カネ、時間、情報）活用 ・人事化と多職種連携・協働 ・医療安全管理部におけるマネジメントの質評価
第5回	<p>テーマ：「医療安全管理（感染防止管理）」における「質の高い医療」のためのマネジメント 担当：隅田由加里</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染防止管理における政策理解 ・政策から考える医療施設における感染制御部の組織構造 ・感染制御部における「質の高い医療」を具現化するためのマネジメントプロセス（計画化、組織・人事化、指揮、統制）の思考 ・感染制御部における資源（ヒト、モノ、カネ、時間、情報）活用 ・人事化と多職種連携・協働 ・感染制御部におけるマネジメントの質評価
第6回	<p>テーマ：「看護部（看護管理室）」における「質の高い看護」のためのマネジメント 担当：隅田由加里</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護部（看護管理室）における歴史理解 ・歴史と現在の医療・看護の現状から考える医療施設における看護管理室の組織構造 ・看護管理室における「質の高い看護」を具現化するためのマネジメントプロセス（計画化、組織・人事化、指揮、統制）の思考 ・看護管理室における資源（ヒト、モノ、カネ、時間、情報）活用 ・同職種の連携・協働 ・看護管理室におけるマネジメントの質評価
第7回	<p>テーマ：「病棟」における「質の高い看護」のためのマネジメント 担当：隅田由加里</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病棟の特徴と責務から考える組織構造 ・病棟における「質の高い看護」を具現化するためのマネジメントプロセス（計画化、組織・人事化、指揮、統制）の思考 ・病棟における資源（ヒト、モノ、カネ、時間、情報）活用 ・同職種との連携・協働 ・病棟におけるマネジメントの質評価
第8回	<p>小テスト テーマ：チーム医療を担う看護専門職として求められる能力 担当：隅田由加里</p>

	<p>・既存の知識とこれまでのマネジメントの学びを活用し、「チーム医療を担う看護専門職」として求められる能力と自身の課題を思考する</p>
テキスト	<p>2年次に購入した 「ナースング・グラフィカ 看護の統合と実践① 看護管理」(メディカ出版) 「ナースング・グラフィカ 看護の統合の実践② 医療安全」(メディカ出版)</p>
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	<ul style="list-style-type: none"> ・井部俊子 中西睦子監修：看護管理学習テキスト 第1巻～8巻、別巻(日本看護協会出版会) ・上泉一子ら編集：系統看護学講座 統合分野 看護管理 看護の統合と実践① ・中西睦子ら編集：看護サービス管理 医学書院 ・細田満和子：「チーム医療とは何か」医療とケアに活かす社会学からのアプローチ(日本看護協会出版会) ・P.F.ドラッカー著 上田惇生編訳：[エッセンシャル版] マネジメント 基本と原則(ダイヤモンド社) ・岩崎夏海著：もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの『マネジメント』を読んだら(ダイヤモンド社) ・杉山良子：ナースのための危険予知トレーニングテキスト(メディカ出版) ・河野龍太郎：医療におけるヒューマンエラー「なぜ間違えるどう防ぐ」(医学書院) ・東京慈恵会医科大学附属病院 看護部・医療安全管理部編著：TeamSTEPSを活用したヒューマンエラー防止策 SBARを中心とした医療安全のコミュニケーションツール(日本看護協会出版会) ・芳賀茂：失敗のメカニズム 忘れ物から巨大大事故まで(角川ソフィア文庫) ・石井遼介：心理的安全のつくりかた(日本能率協会マネジメントセンター)
課題に対するフィードバックの方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 課題レポートの結果概要を Google クラウドルームを活用してフィードバックする。 2. 提出されたポートフォリオにコメントを添えて返却する。 2. 小テストの正答を Google クラウドルームを活用してフィードバックする。
学生へのメッセージ・コメント	<p>これから皆さんは看護職として社会に巣立っていき、様々な医療機関、または地域の施設や企業に就職すると思います。それらの機関は全て組織化され、組織の目標(質の高い医療・看護を提供する)を達成するために、個人でもチームでも、そして組織全体においても PDCA サイクルを回しながら、より良い医療サービス提供のために思考し実践しており、皆さんもその実践者としてマネジメントを理解する必要があります。またマネジメントとは管理者だけが知り行うものではなく、組織に属するすべての人が実践するものであることを理解し、その知識や技法を修得し、看護総合実習や、来年度からの看護専門職として実践する「看護ケアのマネジメント」に役立ててほしいと思います。</p> <p>そのために、優れた経営者の書いた書籍や、看護管理や医療安全管理の研究論文を熟読し、現在のマネジメントの動向や課題を抽出しながら看護専門職としてのあるべき姿を模索してください。最後に、医療・看護を実践するのは人であることを念頭におき、人を活かすマネジメントを実践するためには、物質的要素に加え、互恵的人間関係を構築する協働のスキルやコミュニケーションスキルの重要性を理解し、人間関係論やキャリア形成論などの知識を復習しておきましょう。</p>

